

解剖実習 6/2

背部2

今日の実習内容 (1)

頭頸部

後頭下筋群の起始停止を完全に剖出



環椎・軸椎を露出させるために後頭下筋群を除去し, 環椎後頭膜ほか靱帯を確認

※必ず起始停止を剖出し, 筋の全容を確認した後に除去する

仙骨～体幹部

横突棘筋群 (半棘筋, 多裂筋, 回旋筋)

棘間筋・横突間筋長・短肋骨挙筋をすべて剖出

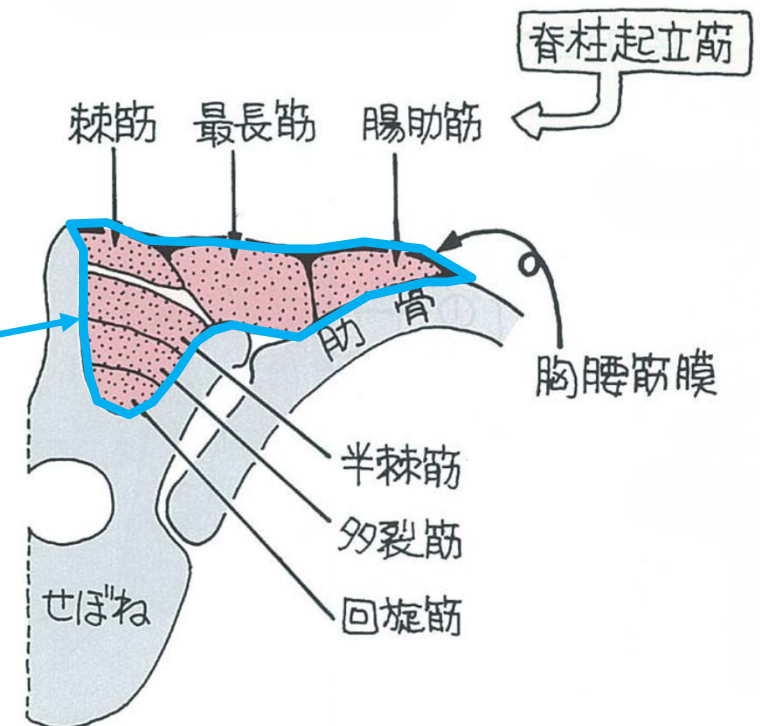


上記の筋を除去しつつ, 脊柱の靱帯を確認

☐棘上靱帯 ☐棘間靱帯 ☐横突間靱帯

頸椎から腰椎までの椎弓に付く筋を除去し
骨表面を露出させる

→ 筋が残っていると
椎弓を鋸で切ることができない



今日の実習内容 (2)

【脊柱管の開放】

- ① 双鋸を用いて棘突起の両側の椎弓を切って開放する
 - ・ 棘上靱帯・胸腰筋膜の残りはすべて棘突起に合わせて切る
 - ・ 双鋸の幅は約2cm 程度. (腰椎の棘突起を挟むくらい)
 - ・ ある程度, 双鋸で切れ込みを入れる → ノミ・槌で椎弓全体を開放
- ② 頸部で ☐ 環椎十字靱帯 (縦束・環椎横靱帯) ☐ 蓋膜 ☐ 翼状靱帯
全体で, ☐ 黄色靱帯 を確認

【脊髓神経節の剖出・脊髓の取り出し】

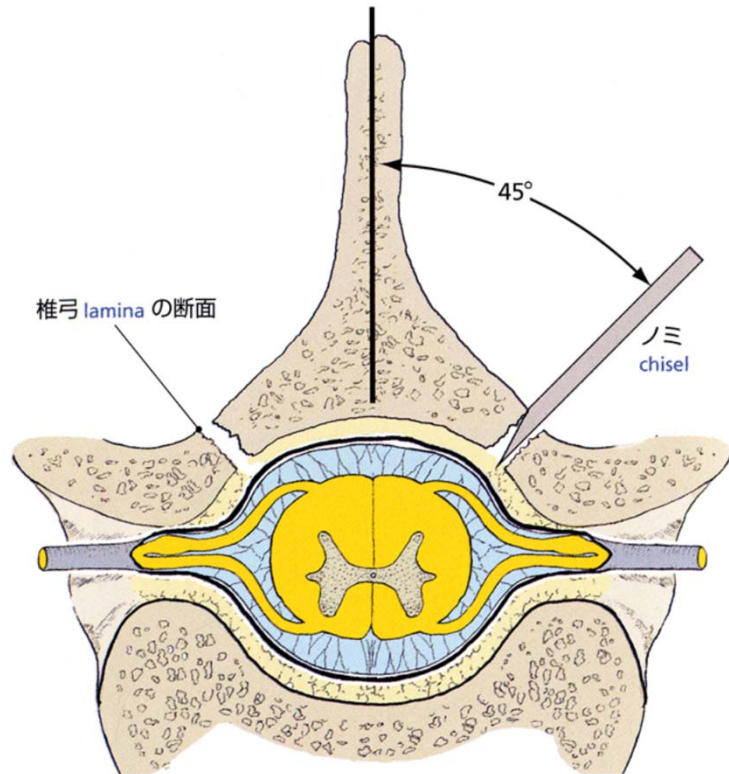
※この時点では, 脊髓・脊髓神経節は硬膜に包まれたまま

- ③ 椎骨の外側をノミ・骨鉗子で開放し, 椎間孔に向かう脊髓神経を観察
環椎-仙骨まですべての脊柱管を開放
- ④ 頸髄, 胸髄, 腰髄仙髄で, 必ず合計 3 対以上の脊髓神経節を剖出して観察
- ⑤ 環椎の上で, 脳硬膜につながる脊髓硬膜を切断する
- ⑥ 剖出した3対の脊髓神経節をつけた状態で, 硬膜ごと脊髓を取り出し
☐ 後縦靱帯を確認

【脊髓の観察】

- ⑦ 脊髓硬膜の前面のみを切り開き, 以下の構造を確認
 - ☐ 脊髓円錐 ☐ 頸・腰膨大 ☐ 馬尾 ☐ 前正中裂 ☐ クモ膜
 - ☐ 脊髓動静脈 ☐ 歯状靱帯

椎弓の切除・脊柱管の開放



双鋸で切れ込みを入れる
(頸部上部, 腰部は双鋸を深く入れるのは難しい)

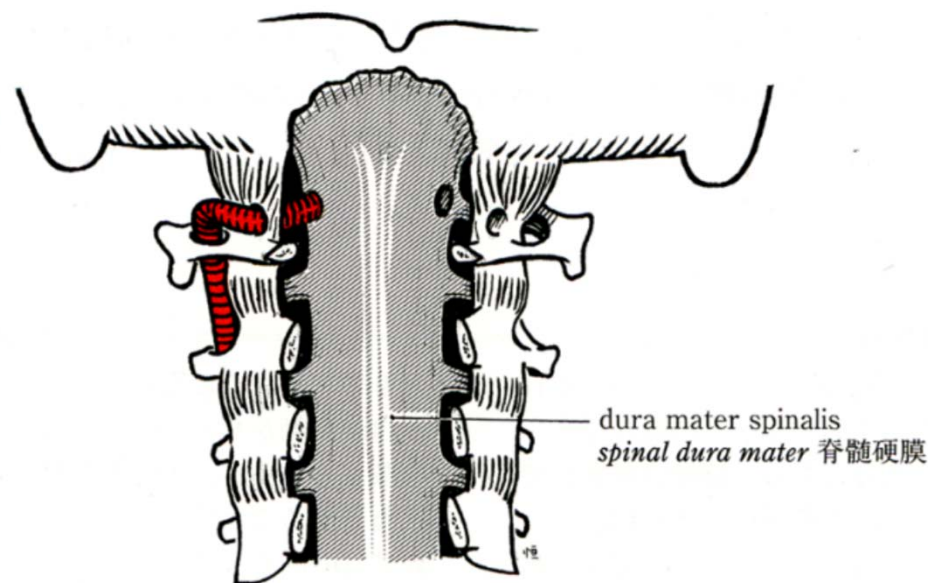
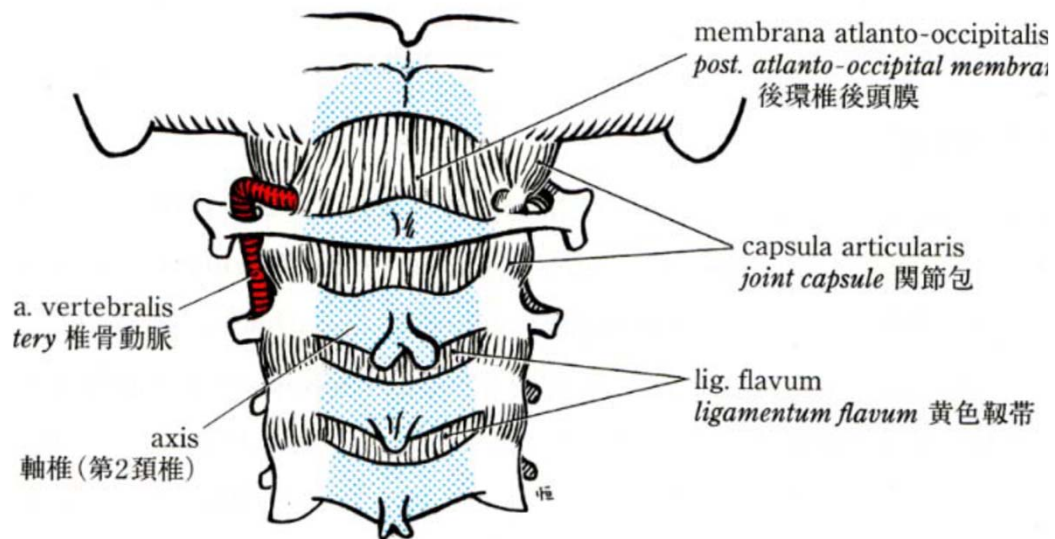


ノミ・槌で椎弓全体を開放

環椎～仙骨まですべて開放

※脊髄硬膜を傷つけないように

椎弓の切除・脊柱管の開放(頸部)



後頭下筋群の除去



環椎後頭膜を観察



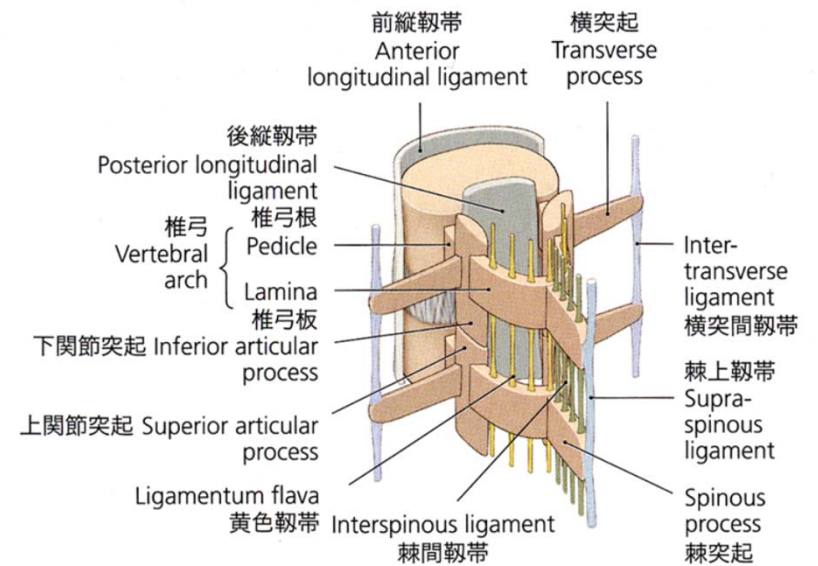
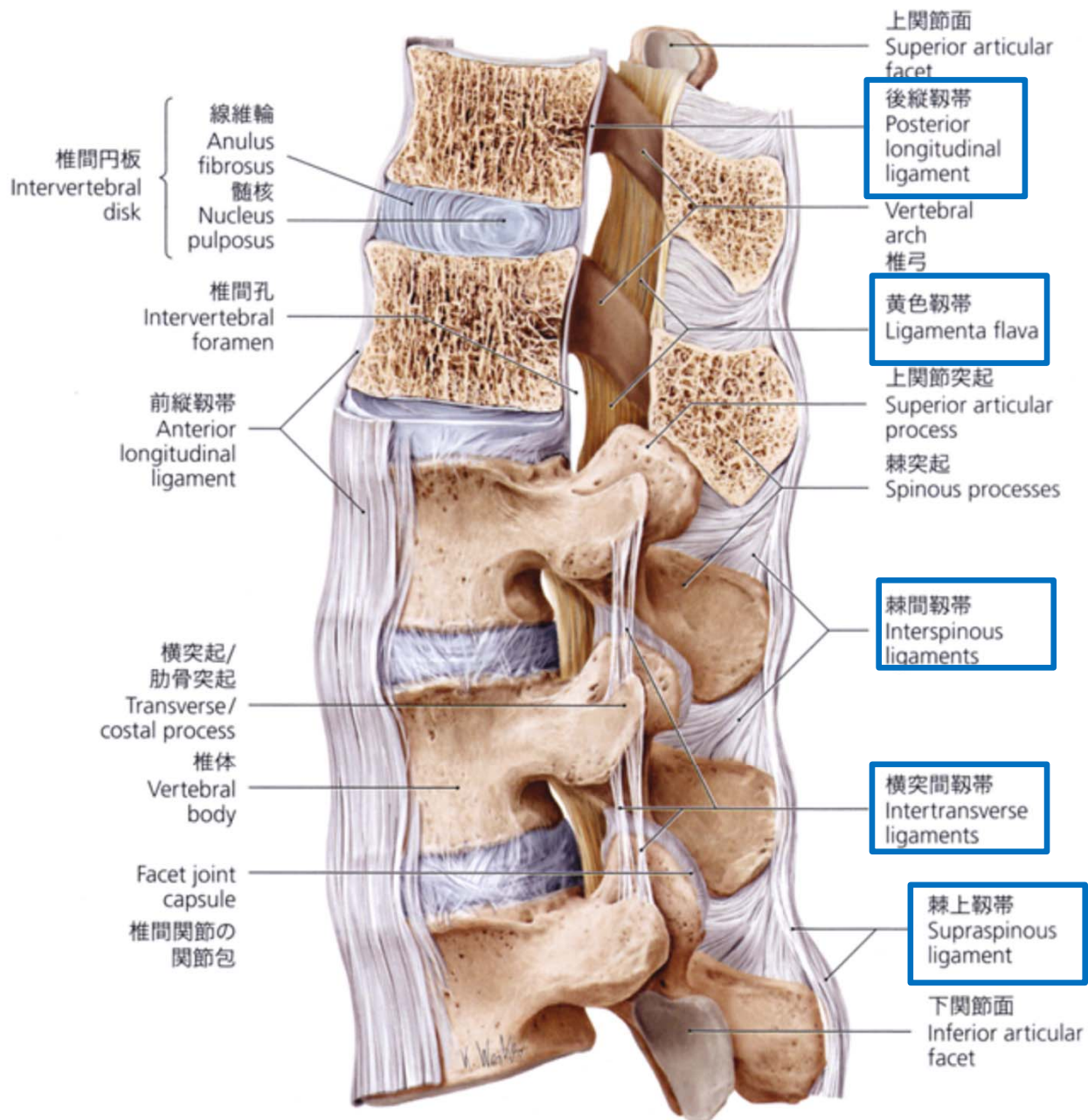
椎弓の除去



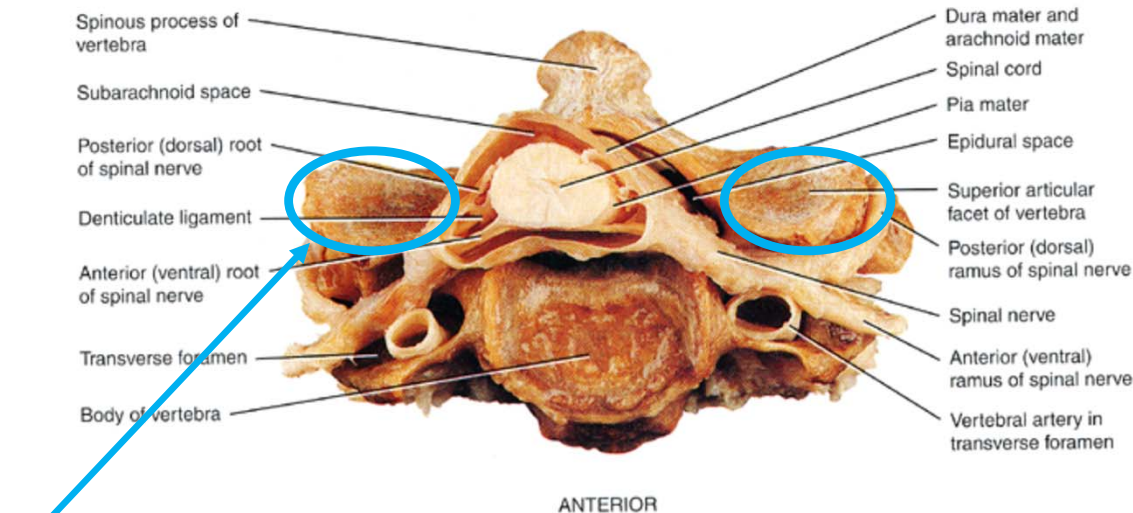
硬膜付きの脊髓を観察

上部では後頭骨の脳硬膜に移行

椎骨の靱帯



脊髄神経節の剖出

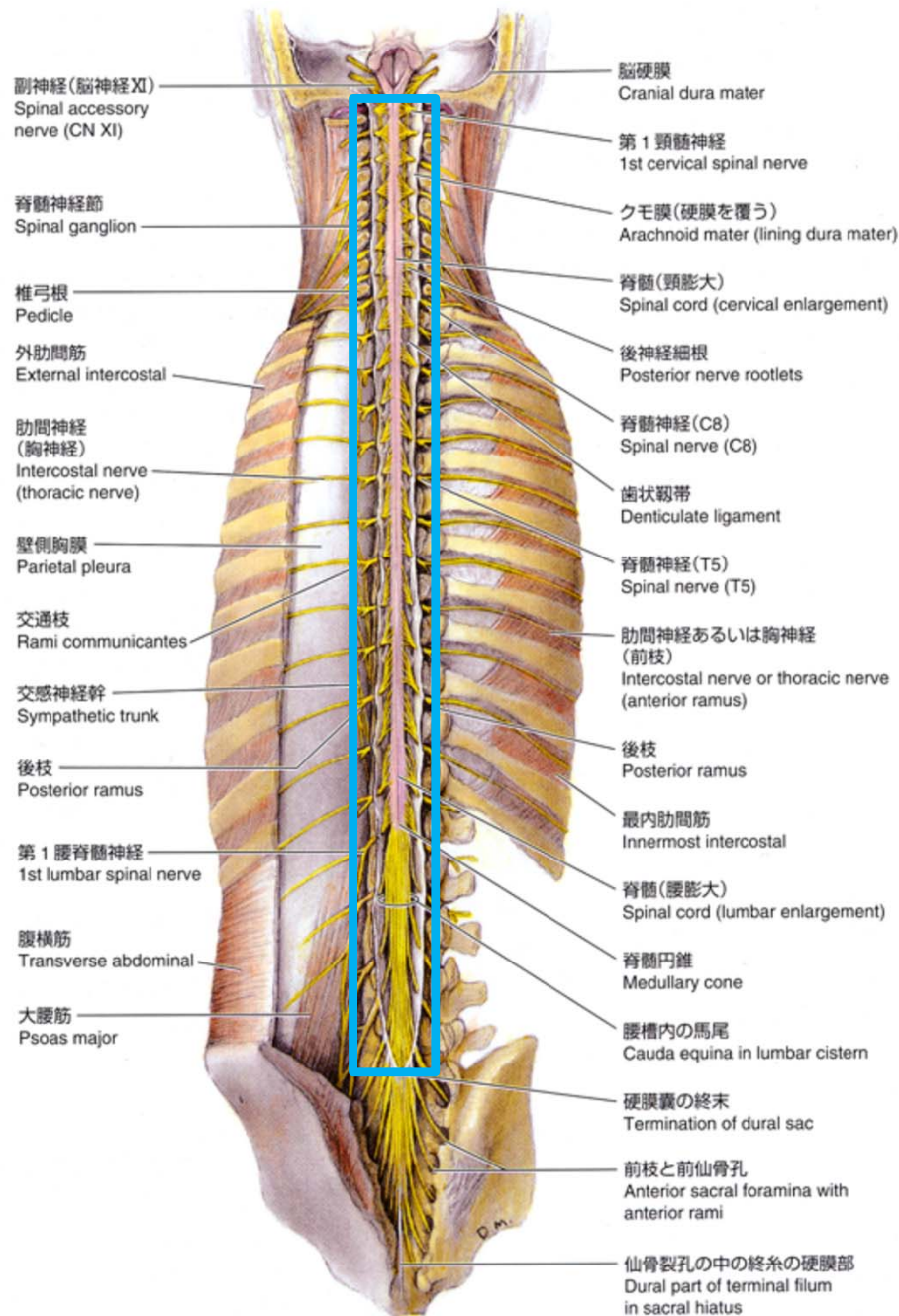


椎骨の外側部を細いノミ・骨鉗子で除去していく



脊髄硬膜をつけたまま,
各レベルの脊髄神経の前枝・後枝を確認.
3対以上の脊髄神経節を細いノミで掘り出す.

脊髄の取り出し

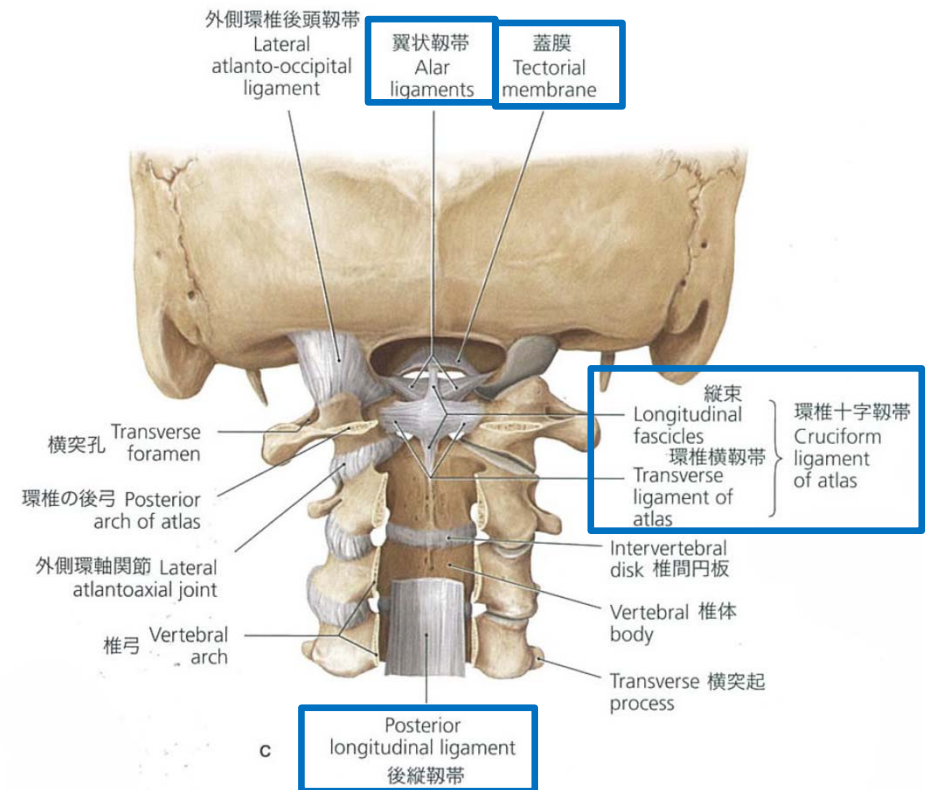
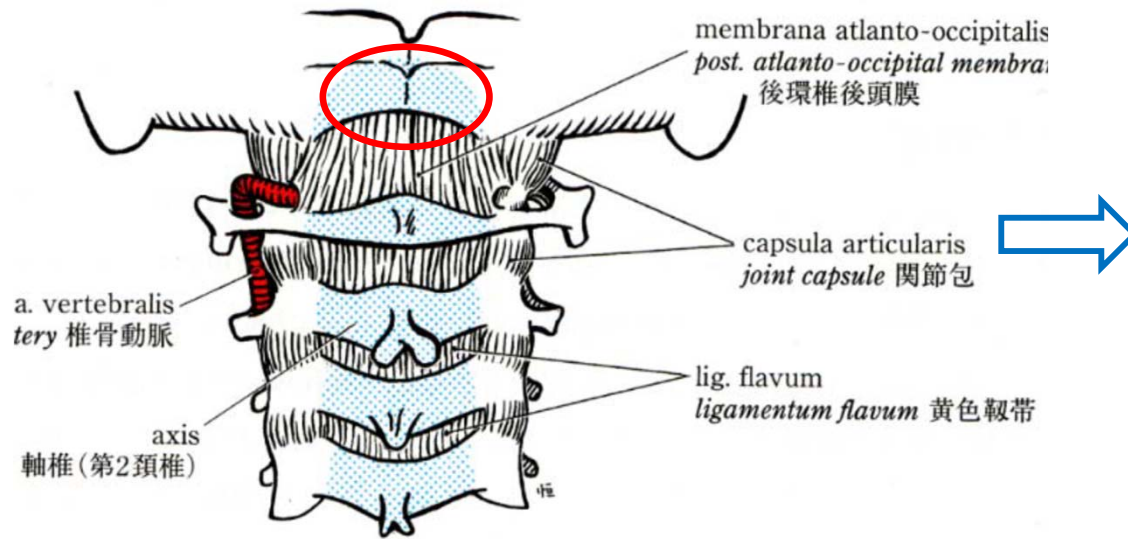


※この時点では硬膜は開放しないこと

後頭骨の直下から仙骨までの脊髄を硬膜付きで取り出す

- ご遺体は脳が取り出されているので、脊髄の上は切らなくてよい場合が多い
- 剖出した3対の脊髄神経節は、神経節から外側1cmくらいで切断
- その他の脊髄神経は脊髄から出て少ししたら切る

頸部の靱帯



後頭骨の大後頭孔を骨鉗子で
広げると観察しやすい

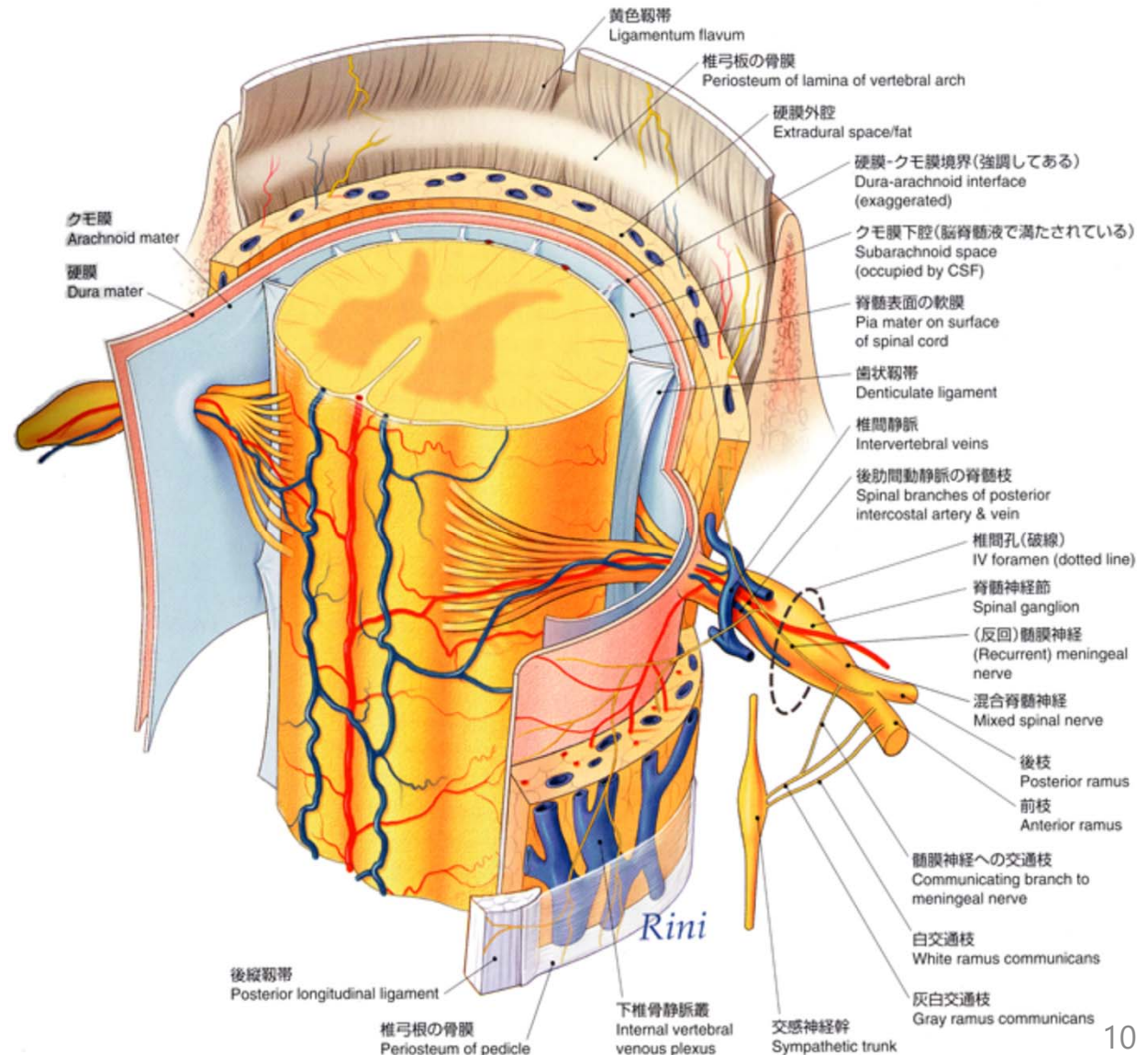
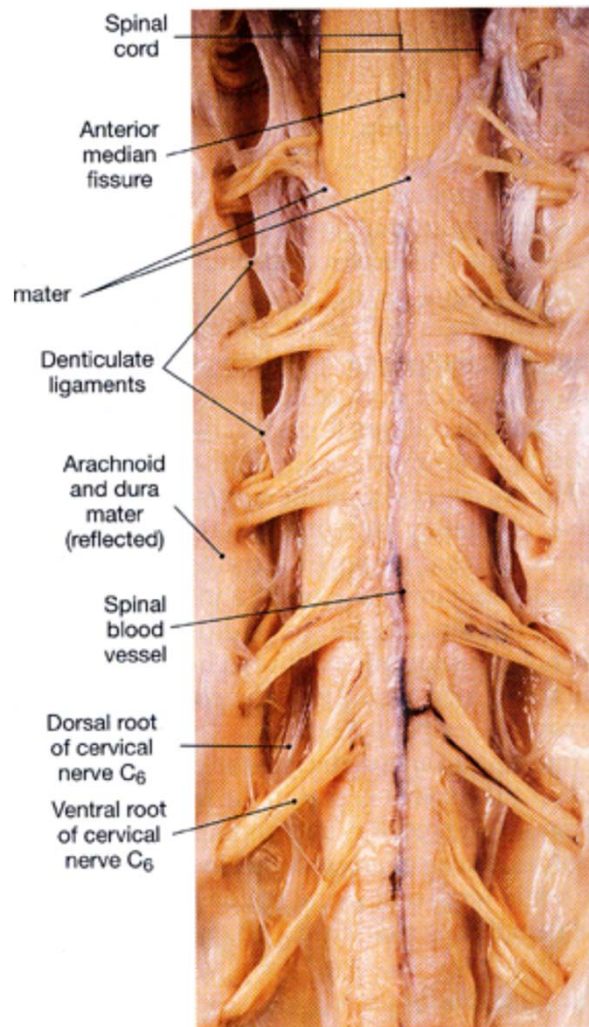
後縦靱帯を剥がし,
後頭骨-環椎-軸椎の靱帯を確認

髄膜・脊髄の概形(取り出し後)

脊髄硬膜の前面のみを切り開き, 以下の構造を確認

- 脊髄円錐
- 頸・腰膨大
- 馬尾
- 前正中裂
- 脊髄動静脈
- 歯状靱帯

□ クモ膜



——— 指定した構造を剖出・チェックした後, 教員のチェック ———

取り出した脊髄に正しい番号の木札をつけ、別容器にまとめて回収する
教卓前の金属製の保存容器へ